

まずは一度、お気軽にお出かけ賜り、月例会の様子を御覧下さいませよう。

二月例会御案内

(平成二十六年・第六四〇回)

公益財団法人協和協会

http://www.kyowakyokai.or.jp

○ 御案内

二月二十五日(火) 正午～二時半

衆議院第一議員会館 地下一階・第一会議室

講題 中国の政治・経済・軍事についての実情解説!

講師 青木直人先生(ジャーナリスト、各分野にわたるが特に中国ウォッチャーで知られる)

日本は、昭和五十三年の「日中平和条約」締結以降、戦時中のお詫びとして、中国へ対して三兆円以上の巨額ODA援助をし、技術提供もし、また、日本の大中小企業が中国へ工場を造り、中国人一千万人も雇用を生みだし、観光にも出向き、固い友好を築いたと信じて来た。しかし、中国の経済が飛躍的に発展すると、その資金を軍事に投入し、核弾頭ミサイルをはじめ、空軍力を増強し、また海軍力も空母をはじめ加速的に増強している。そして、三年ほど前から、尖閣諸島海域を自国領土と主張し圧力をかけつつ増強している。ただ、近年、その国内で暴動やテロが多発し、その経済発展にもかなり陰りが出ているといわれる。そこで、今回は、中国ウォッチャーで知られる青木直人先生に、頭記の題で御講話いただく。奮って御参加を!

◎ 当日の会費 四千円(昼食代ほか。二月二十一日・金迄に、出欠の返信をいただきました) (清原記)

□ 御報告 本年一月十日に開催された恒例の新春懇親会については、その状況を記した「写真報告」を作成し配付しているので、報告はそちらに譲り、ここでは十二月の月例会について報告する。

昨年十二月二十日の月例会は、昨年の平成二十五年は、政権交代後の安倍晋三内閣が本格的に始動し、政治的に意義ある年なので、その一年間を締めくくり、翌年を展望する必要があると考え、当協会に参加する講師会員のなかでも最長老政治評論家・清宮龍先生に「平成二十五年の政界を総括し、明年の政界に要望する!」と題して、御講話いただいた。

その要旨は、まず、中曽根政権時代に、当時、自民党内ニューリーダーと呼ばれていた五人の政治家、すなわち、安倍晋太郎、竹下登、宮沢喜一、中川一郎、渡辺美智雄に会って、それぞれの派閥の中から特に将来有望な政治家を一人づつ選んでいただき、私を含めて十一人で勉強会を発足した。これが、私が主宰した「内外ニュース」の始まりである。

いま、その中の渡辺美智雄の子息・渡辺喜美の「みんなの党」の行方が問題になっているので、そのあたりから話してみよう。父親の美智雄は、世襲代議士といっても父親とは違う選挙区から出て、落選して苦労したが、それだけに発想が奇抜で行動力があり、人物だった。その息子・喜美は、「みんなの党」を創ったのはよいが、まだまだ苦労知らずといっていた。私は橋本龍太郎とも親しくしており、名前に龍が付くので、そういう人を集め「龍の会」を創ったこともある。今回「みんなの党」から江田憲司を中心にして十数人に上る離党者が出た。その江田憲司は、橋本龍太郎の秘書官だった。一般に、最近の政治家は昔の政治家に比べると器が小さい。小沢一郎もそうだが、世襲議員は苦労を知らないせいかな、どうも器が小さい。佐藤栄作総理は克明に日記をつけていたが、その中に、「中川俊思君来て、佐藤さん総裁選四選はやめたほうがいいという。言いくいことを言ってくれた。感謝する。」と書いている。佐藤さんは人の意見をよく聞いたことが、日記から分かる。

次に、安倍晋三総理について、そのプラス面とマイナス面に触れ、また消費税の軽減税率は、消費税を十五%位にする時に考えればよい等々、質問にも懇切に応え意義ある月例会であった。(清原記)

▽ 当(公財)協和協会は「各界の志ある指導者・経歴者が、党派・利害・打算を超えて、真に国家的見地から、我が国立国の基礎をなす諸課題を検討して、世の中に貢献しよう」との趣旨にて、昭和四十九年、岸信介元総理によって創設された財団。第二代会長は福田赳夫元総理。第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、第四代会長は塩川正十郎元財務大臣。平成二十一年六月より会長代行として江口一雄元衆議院議員が就任。理事長は引き続き半田晴久が就任している。会員は、政・財・官・学・民各界の有志がバランスよく集まっている。国会議員・同秘書は、随時参加自由。この月例講話会のほか、内部には、十五ほどの専門的な部会・委員会があり、これまでに、政府へ提出した意見書・要請書は、百三十七本に達している。

事務局電話(03) 3581-1192 専務理事兼事務局長・清原淳平、総務 重田、高津

◎ 添付のハガキ、又はFAXにて、二月二十一日・金までに、事務局へ御返信をいただきました。事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

二月二十五日(火) 正午 出欠 衆議院第一議員会館 地下一階・第一会議室